



国宝探訪VI 姫路城 その六 ～千姫の夢の跡～

大手門を潜り、矢穴の痕跡を目にした後、少し進むと左手三の丸広場の南隅に他の石垣とは異なり方形に精緻な加工を施した凝灰岩による布積みの石垣を目にする。

これは、2代将軍徳川秀忠の長女千姫が暮らしたと伝わる「武蔵野御殿」の庭にあった池汀石組だと言われている。石垣の分類として、石材の加工度から見ると、自然石を使う「野面積み」、荒加工した割石の「打込みハギ」、ノミなどで整形加工した「切込みハギ」の3種類に分かれる。

傾向として野面積みから打込みハギ、切込みハギへと変化するが、姫路城では野面積みと打込みハギが主に使われている。切込みハギは、慶長5年(1600年)以降、隅石の加工から徐々に平石にまでわたるようになり、江戸時代初期以降に多用されるようになった。

姫路城では切込みハギはあまり使用しないが、加賀金沢城でも庭園の滝口周囲で、また肥後熊本城の数寄屋丸の入口にもこの石組が使われおり、この石垣は鑑賞のための意匠的なものと推定されている。

千姫は当時どんな気持ちでこの同じ景色を満喫していたのだろうか、往時の華やかな時代に想いを馳せる。

写真・文：西嶋 宣久

4月の活動報告

- 4. 2 (木) 7 役会 (姫路建設会館)
- 4.16 (木) 構造学習会 (姫路建設会館)
新型コロナウイルスの影響で延期
- 4.23 (木) 建築相談 (姫路市役所)
- 4.28 (火) 監査・理事会 (姫路建設会館)

5月の活動予定

- 5. 9 (土) 支部総会 (姫路建設会館)
- 5.21 (木) 構造学習会 (姫路建設会館)
新型コロナウイルスの影響で延期
- 5.28 (木) 建築相談 (姫路市役所)